

# CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学(吹田)実験研究棟(薬学生命学系)新館その他工事	階数	地上6F地下0F
建設地	吹田市山田丘	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	141 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年9月26日
敷地面積	800 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社総企画設計今川与志雄
建築面積	488 m <sup>2</sup>	確認日	2024年10月17日
延床面積	2,650 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社総企画設計今川与志雄

  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b> ★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B: ★★★ C: ★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもので</p>	<p>30% ★★★☆☆ 60% ★★★☆☆ 80% ★★★☆ 100% ★★ 100%超*</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>( kg·CO<sub>2</sub>/年·m<sup>2</sup>)</p>	<p>Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル</p>

  

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 2.7	Q3 室外環境(敷地内) のスコア = 1.7
<b>Q 環境品質</b>		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q1のスコア = 3.2</b>	<b>Q3のスコア = 1.7</b>
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	2.4 3.0 3.3 3.9	1.0 2.0 2.0
<b>LR 環境負荷低減性</b>		
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR1のスコア = 4.4</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
建物外皮の 自然エネ 設備シス 効率的	5.0 3.0 5.0 3.0	4.4 2.7 3.2
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR2のスコア = 3.5</b>	<b>LR3のスコア = 3.4</b>
水資源 非再生材料の 汚染物質	3.8 3.5 3.3	2.7 3.2

  

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b>		特になし。
建物の特性に合わせて、使いやすさ、維持管理を当初から想定し計画している。リサイクル材を採用し、環境負荷を低く抑えられる建築物となるよう配慮した。		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
シックハウス対策として、F★★★★の建材を採用するなど室内環境に配慮している。	配管部材は、耐用年数の長いものを採用し、維持管理に配慮している。	特になし。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
外皮性能の向上を図るとともに、LED照明を採用し、エネルギー消費の低減に努めている。	節水器具を採用し、リサイクル材を積極的に使用するなど資源保護に努めている。	広告物照明を設置せず、光害の抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.1

【建物概要】 建物名称		大阪大学(吹田)実験研究棟(医歯薬生命学系)新営その他工事				
建設地		吹田市山田丘				
用途／区分		学校(大学等)				
【評価結果】	CASBEE 総合評価			A		
①	CO2削減			4		
②	みどり・ヒート アイランド対策			2		
③	断熱性能			5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
④	エネルギー消費性能			5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
	非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分			6		
⑤	自然エネルギー直接利用					
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス
	エネルギー消費量の報告					報告しない
【評価項目】						
項目	評価内容				スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮				4.4	4
② みどり・ヒートアイランド対策						
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出				1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制				5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化				5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用				3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない
その他						
先進的技術の導入			技術の名称	考慮事項		
特に配慮した事項						